

空飛ぶいちご～香港へ

九州が元気、農産物の輸出徐々に回復

リーマンショック後、昨年の福島原発事故や急激な円高などの影響で、日本産農林水産物・食品の輸出に落ち込みが生じている。特に昨年は放射能汚染の食品事故を恐れ、諸外国における輸入規制が強化され、農産物の輸出は中国向けを始め激減したが、その後徐々に回復している。このような状況を踏まえ、農水省は農林水産物・食品の輸出額を2017年までに1兆円規模に伸ばそうと「農林水産物・食品輸出戦略検討会」を立ち上げ、改めて諸々の課題を踏まえた輸出戦略を再構築し、官民一体となって取り組み始めた。

最近、九州新幹線全線開通後、JR博多シティ開業効果も影響して活気があるのは九州だ。1997年以降2010年まで14年連続してマイナスを続けてきた九州7県の転入超過数に歯止めがかかった。なかでも1年前（2010年）に比べて転入者増加数が最も多かったのが福岡県である。福岡県の2010年の転入者数は98,435人だったのが、2011年は103,497人へと5,062人も増えた。福岡県への転入者が増えて転出者数が減った背景には、東日本大震災や福島第1原発事故の影響で被災地住民の避難と企業のリスク分散立地がある。また九州が転入超過となった理由は、福岡県が転入超過数を増やしつつ、他の6県が転出超過幅を縮めたことによる。

九州は、九州農業成長産業化連携協議会が立ち上がり、農業も元気だ。以前から農産物の輸出に力をいれていた九州は、アジア向けの輸出シェアが全国より10%ポイントほど高い（全国5割に対して九州は6割とアジア度が高い）ことが特徴である。そのアジア向け輸出が足下の10年間で急激に増えてきた品目がある。それは、「いちご」だ。

日本で生産された「いちご」は、香港・台湾・シンガポールなど東南アジアを中心に輸出され、冬の果実として人気が高い。「いちご」は昨年11月には香港向けが輸出再開し、台湾、シンガポール向けも復活し始めた。そんな九州産「いちご」の輸出が、ここ数年で急増した。「いちご」

の輸出が始まったのは10年以上前からだが、当時の年間輸出数量は3トン、金額で3百万円程度に過ぎなかったのが、2005年には22トン、3千6百万円、2008年には96トン、1億5千4百万円へと増加した

（過去10年間で30倍に増えたが、リーマンショック後の昨年については、若干減少した）。そして、九州からの輸出は、全国シェアの8割弱を占めている。

主な輸出先は圧倒的に香港で、9割以上を占める。香港向けが多い理由は、「購買力のある富裕層が多い」「関税が無税である」「検疫を受けなくても良いため、到着後すぐに引き取ることができる」などである。

また、輸送は空の港、福岡空港からの空輸である。いちごは傷みやすいため、鮮度を保つには航空貨物での輸出が主流となっている。福岡空港が利用される理由は、「あまおう」の福岡県、「ひのしづく」の熊本県、「さがほのか」の佐賀県などから九州縦貫自動車道や長崎自動車道を使って福岡空港にア

（次ページへ続く）

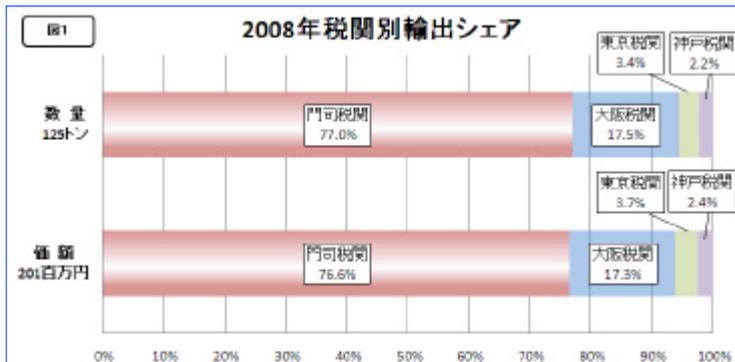
イチゴ	輸出数量(t)	単価(円/kg)	第1位		第2位		第3位		
			国名	数量(t)	国名	数量(t)	国名	数量(t)	
2011年	1月	27	2,015	香港	17	台湾	10	シンガポール	1
	2月	30	1,802	香港	23	台湾	6	タイ	1
	3月	19	1,606	香港	15	台湾	3	シンガポール	1
	4月	0	1,468	香港	0	-	0		0
	5～10月	0	0	-	0	-	0		0
	11月	1	2,369	香港	1				
	12月	17	1,943	香港	15	台湾	2	シンガポール	0
2012年	1月	20	2,045	香港	14	台湾	6	シンガポール	0

クセしやすいことや、毎日香港への定期便が就航していることがあげられる。午前中に輸出された「いちご」は、その日の夕方に店頭に並ぶことになる。香港以外では、2007年からシンガポール、2008年にはタイやロシアへも少量ながら輸出されるなど、今後の海外販路開拓が期待される。

しかし、此処へきて韓国産イチゴも、安値を武器に香港最大手スーパーの店頭を席卷し増加傾向にあるという(日本G

AP協会メルマガより)。韓国産イチゴは広告のトップにも登場し、売れ筋&一押しの商品として韓国産イチゴが出回っている。通常は45HK\$程度、(1HK\$は11円程度2012年3月)安いが美味しくない米国産いちご(25HK\$)と美味しいが高すぎて、万人が買えない日本産いちご(70HK\$)の中間を狙った商品。高級、富裕層向けだけを狙ったのでは、第二の電化製品となりかねない。

今後益々拡大が期待されるアジアの食のマーケットへ、高品質でリーズナブルな多くの空飛ぶ農産物を九州から拡販して欲しい。美味しいだけでなく、安全・安心、栽培技術・生産性の向上によるコストダウン、新品種開発など、また「いちご」に限らず、多くの生鮮野菜や果実、米でも日本産農産物ブランドの価値を高め、結果として地域農業の活性化に繋がることを期待したい。



〔注〕2007年の国内生産量は農林水産省ホームページより

2012年桜前線予想

今年も桜の便りを聞く季節になった。例年より寒く推移した冬を越え、待ちに待った桜前線だが、全国では最初に3月21日に高知市の桜が開花した。桜前線は、これからおよそ2ヵ月かけて日本列島を北上し北海道根室市に到着するだろう。今年の桜(ソメイヨシノほか)の開花日は、高知市では平年並みだったが、九州・四国・東海地方は平年とほぼ同じか平年より2~6日遅いという予想。中国・近畿・関東・北陸地方は平年より4~6日遅い所が多く、甲信・東北地方と北海道は平年とほぼ同じか2~3日程度遅い。今年は、2月に厳しい寒さが長引いたことから、桜の花芽の生長がやや遅れていると考えられる。3月ここまでの気温は、九州南部や四国太平洋側と東海地方では平年より高く、その他は平年並みか平年より低い所が多くなっている。このことから、今年の各地の桜の開花日と満開日はほとんどの地域で平年より遅く、1週間近く遅い所もあるだろう。(出典：日本気象協会HPより)



平年差(比) 図 (2012年冬(12~2月))



近所の橋の袂にある早咲きの寒桜がようやく8分咲きになりました。例年だと、今頃には花は散り、新芽が出ている頃ですが、今年やはり寒さが長引いていますね。春を待ちわびている道行く人たちが、一足先に咲くこの桜を、足を止めてよく眺めています。春本番まで、もう少しですね。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川・寺田

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp